

1995年度採集観察会

*第2回 7月9日(日) (雨天決行!)

場所: 東京大学農学部 田無演習林

集合: 西武池袋線「ひばりが丘」駅南口 10:00

→ @駅前にて昼食は購入できます。

西武バス ひばりが丘駅←(団地経由)→武蔵境駅 (路線番号 境04)

ひばりが丘駅←(団地経由)→田無駅 (路線番号 田43)

「六角地蔵尊前」下車、当地入り口は停留所のすぐ前。

「ひばりが丘」駅からは7~8分。

世話人・宮下 直 ☎0471-74-1612、笹岡文雄 ☎03-3918-1945

お願い

①ひばりが丘駅に集合が不便な方は、直接「田無演習林」入り口にてお待ち下さい。本隊は10:30頃までに到着する予定です。

②当地は東京大学の施設のため、11時までに入り口を施錠します。ただ施錠してあっても入場して構いません。また予め世話人まで到着時間をお知らせ頂ければ開錠します。

今後の予定: 第3回・10月15日(日)、第4回・1996年2月18日(日)

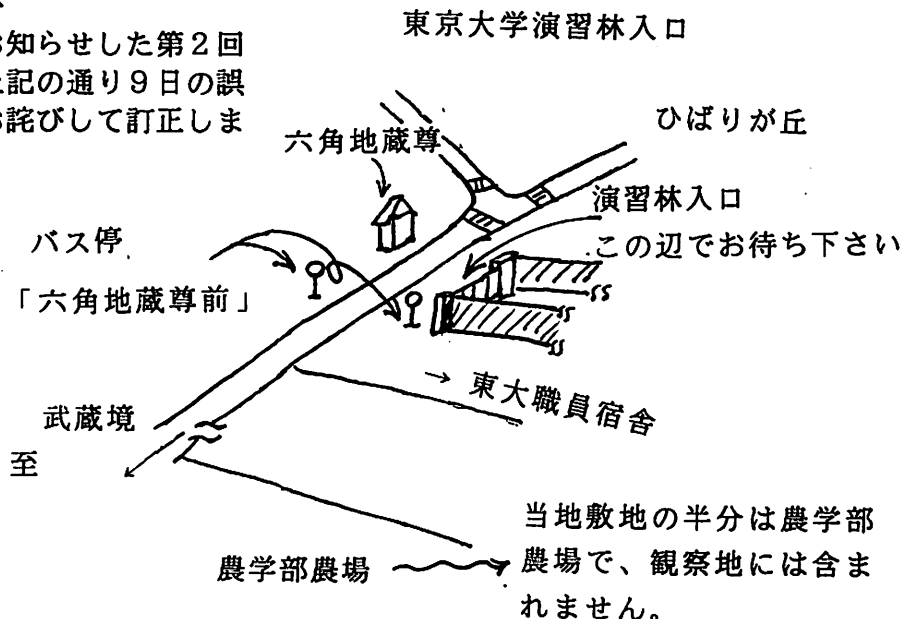
お詫び

通信No. 83にてお知らせした第2回採集観察会日取り上記の通り9日の誤りでした。ここにお詫びして訂正します。

No. 85

締切は

8月末日!



＊ ＊ 1995年度総会・例会報告 ＊ ＊

司会進行 平松毅久 (スライド：谷川明男)

(1) 開会挨拶 10:35 梅林 力 (2) 午前の講演 10:40 ~ 12:00 (3) 総会 13:00 ~ 14:20
(4) 午後の講演 14:25 ~ 17:20 (5) 記念写真・自己紹介 (6) 懇親会

＊午前講演内容

①木村知之「台湾、クモみてある記」(スライド)

講演者の台湾クモ紀行。台北から南投県へかけての自然とクモについて。スズミグモ、ツリガネヒメグモ風のヒメグモなどを紹介。

②鈴木茂生「キシノウエトタテグモの生態 ~生活史の概要~」(スライド)

キシノウエトタテの生活史に関して、未だ明確でない点の指摘。また成体は飼育下において3年、野外では4年とし、野外では産卵まで5年と推定した。

③小澤實樹「クモのカタチ」(スライド)

ものの形はシンボリックになる。クモの腹部の形状をグラフィックデザインの視点で見る。特にヨツボシワシグモの腹部は黄金矩形の中にきれいに入る。

＊午後講演内容

④加藤むつみ「クモのツノ ヤリグモの交接 VTR他を見ながらクモのツノの役目について考える」ヤリグモの頭胸部にある「ツノ」は交接時、どんな役目を果たしているのか。コサラグモの場合は分泌腺があるものがあるが、ヤリグモについては未説明。

⑤水野陽介、坂井俊洋、千葉真由美、(新海 明)「クモはなぜ自分の網にかからないか その疑問」過去、ファーブル、関口の実験から足先から油が分泌されているとされていた。しかしクモはしおり糸を切らずに網に帰すと、足先を洗ってもうまく戻ったことから、油が分泌されているという定説は疑問とする。しおり糸の重要性に着目。またクモの種類、歩くという概念をどうするかということが今後の課題となる。

⑥宮下 直「ジョロウグモとナガコガネグモの網のデザインと機能の比較」(スライド)

両種の網のみを枠に入れ、掛かった小昆虫を数えた。結果 ジョロウ > ナガコガネ で10%ほどの差が出たが、ナガコガネのほうがやや大きいものが掛かる。

⑦吉田 真「アシナガグモ科4種の生活史」(スライド)

タニマノドヨウグモ、オオシロカネグモ、ヤサガタアシナガグモ、アシナガグモの4種における一年の頭胸長の変化によるステージの差によって繁殖特性を明らかにした。

⑧池田博明「カタオカハエトリとマミクロハエトリの正体」

カタオカハエトリは *Euophrys frontalis* ではなく、sp. とする。またカキイロハエトリはシノニム。マミクロハエトリ、すなわち千国図鑑のマミジロハエトリの一種(A)は *Evarcha fasciata* であった。

⑨谷川明男「コスタ・リカで観察したコガネグモ科とアシナガグモ科のクモ類」(スライド)

中米コスタ・リカの自然とクモ紀行。北米と共通種であるが、銀色のコガネグモを始めとしたクモ類、中米熱帯雨林の自然。第8回だんわ会講演の再演。

⑩新海栄一「最近採れた珍しいクモ(4)」(スライド)

トビジロイソウロウグモの卵囊の判明やケハイグモの生態写真などの紹介。

* 総会報告 (議長: 池田博明)

(1) 1994年度活動報告

会誌発行(65~68号、木村)、通信発行(81~83号、笹岡)、採集観察会(埼玉・高山不動、平松) 合宿(丹沢、池田)、決算報告(平松、p. 4 参照)

(2) 承認事項 (1995年度活動計画)

①予算(p. 5 参照、平松) ②会誌発行(69号 予定8月・70号 予定'96年2月、木村)

③通信発行(84~86号)、原稿締切設定(詳細p. 6、笹岡) ④合宿(高知県・詳細p. 16参照、平松)

⑤合同例会(予定12月3日、詳細次号)

⑥その他の提案事項 ()内は提案者

a 毎年会員名簿の作成(事務局) b 採集観察会計画を総会議案より削除(笹岡) c 将来的な会費値上げについて(事務局) d 代表の名称を廃し、会長とすること(新海栄一) e 八木沼健夫先生追悼について(笹岡)

→ a b c の3項目については運営委員会にて検討。dについては規約の改正の必要があるか確認の上、名称変更。e KISHIDAIA誌上にて計画。

参加者: 秋山亜由子、池田博明、泉 宏子、岩崎祐哉、梅田泰圭、梅林 力、大川秀治、緒方 和
小澤實樹、小野展嗣、柿沼智子、笠原喜久男、加藤輝代子、加藤むつみ、金野 晋、木村知之、
工藤泰恵、小峰光弘、坂井俊洋、笹岡文雄、佐藤幸子、新海 明、新海栄一、鈴木茂生、谷川明男
千田高史、千葉真由美、新村 誠、萩本房枝、初芝伸吾、伴 満、平松毅久、古浜 隆、松本誠治
水野陽介、宮下 直、安田明雄、山田一貴、吉澤美香、吉田 真、渡邊雅人 (41名)50音順

*事務局・会計 平松毅久 〒350埼玉県川越市上戸91-3 瀬尾荘202 ☎0492-33-8792

訃報・八木沼健夫博士亡くなる

去る4月5日午前7時51分、八木沼健夫先生がお亡くなりになりました。永年にわたるクモ学へのご貢献は改めて申し上げるまでもありません。当会にご葬儀にあたって献花致し、謹んで哀悼の意を表明させて頂きました。また何らかの形で先生の追悼を KISHIDAIA 誌上にて計画していることを申し添えます。先生のご冥福をお祈りして。

東京蜘蛛談話会

東京蜘蛛談話会1994年度会計決算報告			
科目	収入	支出	備考
会費	1,053,600		欄外①参照
寄付	29,485		
別刷代	60,000		
別刷送料	4,930		
会誌作成費、発送費として繰越	400,000		
特別会計から繰入	104,635		
会誌作成費		715,050	
会誌発送費		219,340	
談話会通信費		119,744	通信作成発送
その他の送料、印刷		24,240	新入会員への会誌等発送、各局通信事務費
事務一般費		44,276	消耗品(タックシール、ゴム印、封筒等)
前納会費繰越		530,000	
計	1,652,650	1,652,650	
収支	1,652,650 - 1,652,650 = 0		

東京蜘蛛談話会特別会計		
積立金	814,534	1993年度までの積立金残高
1995年度へ繰入	104,635	
収支	814,534 - 104,635 = 709,899	
積立金残高	709,899	1994年度決算時現在

欄外	
① 未納分後納	37,600
1994年度前納繰越	213,200
1994年度当年度納入	272,800
1995年度前納繰越	343,200
1996年度以降前納	186,800
合計	<u>1,053,600</u>

以上相違ありません。

1995年4月23日

会計：平松毅久

会計監査：笠原喜久雄、鈴木成生

東京蜘蛛談話会1995年度予算			
科 目	収 入	支 出	備 考
会 費	553,200		欄外①参照
特別会計より繰入	144,970		
会誌作成費		360,000	欄外②参照
会誌発送費		125,860	欄外③参照
談話会通信費		123,810	欄外④参照
その他の送料、報酬		28,500	欄外⑤参照
事務一般費		35,000	欄外⑥参照
名簿作成費		25,000	
計	698,170	698,170	

① 一般	2800×189	529,200	④ 通信84号作成	17,000
学生	2000×12	24,000	85号作成	16,000
合計	201名	553,200	86号作成	16,000

② キンダイア69号	180,000	通信発送	
70号	180,000	90×203×3	54,810
合計	360,000		

③ 69号	350×203	71,050	例会用返信はがき	
70号	270×203	54,810	50×200×2	20,000
合計		125,860	合計	123,810

⑥ 事務一般費	10,000	⑤ その他の送料	10,000
発送用封筒印刷	25,000	本部通信事務費	2,000
合計	35,000	事務局通信事務費	5,000
		編集局通信事務費	5,000
		通信編集通信事務費	6,500
		合計	28,500

1995年4月23日

事務局、会計 平松毅久

1994年度会員動向

1994年4月1日現在の会員数 188名

入会23名, 退会9名(希望5名, 規約4名)

1995年4月1日現在の会員数 201名 (一般189名, 学生12名)

(別に休会扱い2名)

原稿を募集しています。ドシドシ下記の担当にお寄せ下さい。

※KISHIDAIA

担当：木村知之 〒215神奈川県川崎市麻生区東百合丘4-38-12 ☎044-955-1610

- 1.原稿用紙は市販の400字詰め原稿用紙を使用してください。ワープロの場合はA4サイズに40～44字×36行を目安としますが、そのファイルを入れたフロッピーも同時に送付して下さい。詳細は木村まで。
- 2.学名などイタリック体を使用する場合には、その下に赤線を引いて下さい。（学名の場合、属名と種名、それぞれに赤線を引いて下さい。）
- 3.写真は白黒にして下さい。図は製図用インクなどで、墨入れして下さい。
- 4.文章は5行目から書始め、1行目にタイトルを3行目に著者名を書き入れて下さい。

(1989年4月15日改正)

※談話会通信

担当：笹岡文雄 〒170東京都豊島区北大塚3-12-21 ☎03-3918-1945

- 1.原稿に形式は特に指定はありません。ワープロの場合はB5またはA4サイズ用紙縦、横書きをお願いします。
- 2.切りぬきの場合、出典名、日付を添えて下さい。
- 3.発行日が固定します。その年度の1号目は5月第3または第4日曜日
2号目は9月第3日曜日
3号目は2月第1日曜日

今年度はそれぞれ5月21日、9月17日、'96年2月4日となります。但し皆様のお手元に届くのは発行日の日付と多少前後します。

- 4.原稿の締切を設定しました。掲載希望号のある場合は下記の通りで、原稿必着をお願いします。それを過ぎて担当に到着した場合は原則として次号掲載となります。

1号目は4月末日、 2号目は8月末日、 3号目は12月末日

*近況から（総会出欠ハガキよりの転載です・原文ママ） 北から南へ

★田中一裕（北海道札幌市）あいかわらずオオヒメグモを材料に休眠と耐寒性の関係をおいけています。ちょっと採りすぎたのか、北大キャンパス内のオオヒメグモがへっています。

★海老原憲昭（茨城県ひたちなか市）今年は中学2年になります。採集観察会にいきたいのですがなかなか時間がとれません。

★小池牧子（東京都江戸川区）早いもので長男が今年4月から幼稚園に通うことになり、おまけに役員（父母会）になってしまいました。主人が町内会と会社の軟式野球のレギュラーなので、なかなか土日子供を預かってくれないので出られないです。平日の方が動けたりして。

★梅林 力（東京都杉並区）38年間の教師生活を終え、第二の人生に向かって……と思っていますが、今のところ連日残務整理であたふたしています。5月ぐらいになると、少しくモに力を注げる

郵便振込口座番号 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会

かな？と思っています。

★小澤實樹（東京都世田谷区）元気であります。毎々思うのですが、通信はじめ各種連絡など世話人各位のご努力のこと。感謝です。

★初芝伸吾（東京都中野区）冬は仕事上外に出ることがあまりありませんでしたが、2月と3月に大分に行く機会があり仕事をしながらクモを採集しました。ほんとうに少ない採集しかできませんでしたが、きれいなクモもいました。同定はまだ。

★田中勝子（東京都練馬区）ニュースを送っていただきありがとうございました。光が丘公園の屋敷森のクモ類を調べてみたいと思っていたのですが、健康を害してしまい見通しが立たなくなりました。残念だなあーと思っています。

★朝倉幹晴（東京都文京区）なかなか時間が合いませんが、いつか観察会にいきたいです。

★千田高史（東京都秋川市）3月に東邦大学理学部生物学科を卒業しました。この4月からは東京大学農学部養蚕学研究室の研究生です。カイコの研究室ですがクモの分子系統学的研究をする予定です。分類の勉強もしていきたいと思います。皆さんご指導よろしくお祈いします。

★加藤むつみ（千葉県千葉市）もう一年程前に、ネイチャーシネプロの伊藤さんに飼育していたヤリグモの交接をちょっとだけ撮ってもらっていたのですが、典型的なものとは思えず、どのようにまとめて良いのかわからなかったためほったらかしだったのですが、もろよけいな事は考えずに見ていただこうと思い立ちました。VTRの編集も終わっていませんので、どのようなものになるのかわかりませんし、したがって題もかわるかもしれませんけれど良いでしょうか。

★和仁道大（千葉県千葉市）草柳大蔵の「これが私のお経です」という堅い本を読んでいたら急にクモのことが書いてあった。氏の育った川崎総持寺の裏山が自然豊かだった話。「春にはバラホンチという蜘蛛が出はじめた……ホンチをつかまえると一匹ずつ一箱に収納した。二匹いっしょにするとなちまち死闘を演じ……」 p.132

★高津佳史（千葉県我孫子市）通信を毎号楽しく読まさせていただいております。仕事の関係で興味を持ち始めたくもの世界ですが、まだまだ知らないことが多く、採集会などにも参加させていただきたいと思っています。昨年は、新海栄一氏に同定していただいたおかげで、伊豆新島ではカトウツケオグモやイボカニグモといったクモに出会うことができました。今後ともよろしくお祈いします。

★長島 充（千葉県佐倉市）フィールドを歩いているとそこかしこに春の気配を感じる今日この頃です。冬の間、すっかり鳥屋に变身していた私も日増しにクモ熱がよみがえってきます。先日、管ピンとルーペ、そしてマクロレンズをひさびさに引っ張り出してきました。さて今年のシーズンはどんなクモと遭遇できるかわくわくしています。ただし、鳥目をクモ目に変えていくのにしばらくウォーミングアップをしなければと思っています。

★生山 健（千葉県松戸市）半年間北海道で研修してきます。

★谷川明男（神奈川県横浜市）コガネグモ科のクモを研究しています。ご不要の標本がありましたらご恵与下さい。特に雄歓迎です。種名不明のものは大歓迎です。よろしくお祈いします。

★秋元 昇（神奈川県横浜市）勤務先の都立高校で「真正クモ類研究会」を発足させたが、生徒の

会費は年間 一般¥2,800 学生¥2,000

集まりが悪く、寂しい思いをしています。近隣の雑木林での調査も少人数で行なう他ありません。今、春が待ちどおしいです。入会してまだ一度も観察会等に参加させて頂く機会がありませんが、今後とも宜しくお願いします。

★佐藤幸子（神奈川県横浜市）春を目の前にしてトウトウひどい風を引いてしまいました。それがなおるとアレルギー性鼻炎で『くしゃみ』『はな水』がとまりません。暖かい日には庭の草花の手入れをしますが、コモリグモの仲間の他はあまり姿が見えません。みんなドコで冬の寒さをしのいでいるのでしょうか。もうすぐ啓蟄です。

★新村 誠（神奈川県川崎市）1995.1に入会させて頂きました。クモについては全くの素人ですのでなんでも教えて頂きたいと存じます。これからよろしくお願い致します。

★池田博明（神奈川県足柄上郡大井町）平成10年用高校理科(生物)の教科書の検定が始まります。改訂作業に取り組んでいます。使い勝手の悪いところは、言って下さい。検討します。ハエトリグモの分類に力を入れています。既知種でも結構ですので、標本を送って下さい。

★須賀英文（岐阜県可児市）昨年来、中部蜘蛛懇談会の会報「蜘蛛 No.27」を出すことができました。早く、東京蜘蛛のような活発な会になれば……と思っていますがなかなかです。先ずは会員不足、どなたかご入会下さる方はないでしょうか。

★吉田 真（滋賀県草津市）関西でも若手を育てようと思っているのですが、なかなかです。

★東條 清（和歌山県海南市）極めて健康、現在イトグモの観察に熱中しています。

★濱田龍一（広島県福山市）昨年12月半ば、急に右手首から先が動かなくなりました。いわゆる五十肩の一変型のように、年末・年始は病院で過ごしました。おかげで年賀状はもとより今年の試験成績のまとめ、成績検討会議も見送り、実にのんびりとした新年を迎えました。2月20日で通院も終り、野菜の苗作りの準備を始めています。

★木庭 奏（熊本県山鹿市）例年通り、この時期は総会準備のため出席できません。盛会をお祈りします。

★石野田辰夫（宮崎県宮崎郡佐土原町）①宮崎はクモの国でしたが唯今は農薬により直接、間接に著しく殺害され、現在はとても少なくなりました。でも今は特定の種は生活ができる程の環境になったようです。②1995年1月21日(土)～29日(日)に昆虫展をやり、1/5のコーナーには宮崎のクモの標本と写真を展示させて頂きました。小学生、中学生、高校生それに一般の方が来られましたが5,000人を越えました。1,000人毎に4,000円也の写真集を差し上げました。とても盛会で驚きました。③1995年2月5日(日)宮崎公立大学で後援会を持ちました。ホタル、トンボ、ゲンゴロウ、ガなどの間に宮崎のクモも話すことができました。特別講演はニューギニアの人と自然で9:30～昼食～15時までとても楽しい1日でした。——これが1995年の幕開けのニュースです。

通知を頂いた方々（50音順、敬称略）

（出席）秋山亜由子、泉 宏子、大川秀治、小野展嗣、工藤泰恵、新海 明、新海栄一、鈴木茂生
伴 満、宮下 直

（欠席）石川みどり、鶴崎展巨、藤井靖浩

*採集観察会中間報告 第4回 1995年2月19日 (日) 晴

参加者(50音順、敬称略): 泉 宏子、大川秀治、笠原喜久雄、加藤むつみ、北山元章、木村知之、工藤泰恵、小峰光弘、笹岡文雄、貞元己良、新海 明、新海栄一、千田隆史、長井芳夫、中野隆雄、初芝伸吾、伴 満 以上17名 (集計: 笹岡)

トタテグモ科 キノボリトタテF, y

ジグモ科 ジグモF, y

ウズグモ科 マネキグモy

エンマグモ科 ミヤグモf

ユウレイグモ科 ユウレイグモf, y

ヒメグモ科 ツリガネヒメグモy オオヒメグモf トビジロイソウロウグモy オナガグモy
フタオイソウロウグモm, y ヤリグモy オダカグモy ホシミドリヒメグモy
コガネヒメグモy ムラクモヒシガタグモy ヒシガタグモy ハングツオスナキグモF
バラギヒメグモy ムナボシヒメグモy

サラグモ科 クロテナガグモF アシヨレグモF クスミサラグモm, y ヘリジロサラグモm
ユノハマサラグモy チビアカサラグモf サラグモ(デーニツ?)sp. f

センシヨウグモ科 センシヨウグモe

コガネグモ科 アオオニグモf トガリオニグモy トリノフンダマシy

シロスジシヨウジョウグモy メガネドヨウグモy ジョロウグモe カラフトオニグモy

カラカラグモ科 ヤマジグモe ナルコグモM

アシナガグモ科 アシナガグモy ウロコアシナガグモy

ヒラタグモ科 ヒラタグモF, y

タナグモ科 クサグモy, e ヤマヤチグモy メガネヤチグモM ヤチグモsp. y
ナミハグモsp. y

キシダグモ科 アオグロハシリグモm, y スジアカハシリグモy イオウイロハシリグモf, y

コモリグモ科 フジイコモリm, y ヒノマルコモリF ウツキコモリf, m

コモリグモ(キバラ?)sp. y コモリグモsp. y

ササグモ科 ササグモf, y

フクログモ科 ヤハズフクログモF ウコンフクログモグモM イタチグモy ネコグモf

イツツグモ科 イツツグモF

エビグモ科 キハダエビグモf アサヒエビグモy

カニグモ科 キハダカニグモF アマギエビスグモf, m ワカバグモy

ハエトリグモ科 ネコハエトリf, m ヨダンハエトリf アリグモF チャイロアサヒハエトリy
ムツバハエトリM

計68種

略号 F(♀成体) M(♂成体) f(♀幼体) m(♂幼体) y(性別不明幼体) e(卵)

当日は体調不良で出席できず、参加者の皆様にご迷惑をおかけしました。 平松

【1】珍種マダラヒメグモが石川県で発見された

順不同

日本蜘蛛学会の会場になった金沢市の石川県青年会館の玄関先で、大会当日8月21日の深夜、韓国の方々を案内しての夜間観察でイソコモリグモを探しに出て、むなしく帰って来た談話会メンバーの面々（新海栄一、池田、貞元、高橋登、塩崎、緒方）が石柱のくぼみに網を張っている美しい模様のSteatoda属のヒメグモを発見。模様には個体変異があり、ナナホシヒメグモに近い個体から特異な模様まで色々だった。採集して調べた結果、最初に1982年2月に愛知県で発見された珍種マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* と判明した。八木沼の図鑑（1986、保育社）の腹背の模様は典型的なものだが、変異が多いこと、外雄器の図は一致しないこと（LeviのSteatoda属総説の図と石川県の本種は一致した）など、同定には注意を要する。人造物に造網することなど、帰化種としての特徴が明らかかなようだ。

【2】トゲグモの雄が続々と見つかった

関東地方では「幻のクモ」になりつつあったトゲグモ *Gasteracantha kuhlii* が、今年の空梅雨のせい、神奈川県丹沢域で夏に（7月下旬から8月）に相次いで発見された。しかもほとんど持っている人がいないという雄まで一緒に採集されたから驚きであった。談話会の松田町寄での談話会の合宿で新海栄一（♀を採）・伴満（♀♂を採）・加藤むつみ（♀♂を採）各氏、桑野市大倉で新海明氏（♀♂を採）、8月27日に神奈川県桑野市蓑毛自然観察の森で浜岡史子氏（はだのネイチャーウォッチングクラブ代表、♀を発見。池田が確認）、丹沢域で山川守氏（♀を採）が発見している。

【3】ムナアカフクログモにヒメカマキリモドキが寄生する

クモに寄生する昆虫カマキリモドキの観察例は大変少なかった。このたび新開孝氏は生きたクモの腹柄部に巻き付くようにして潜んでいるヒメカマキリモドキの1齢幼虫を探索、ムナアカフクログモによく寄生していることを発見した。

【4】ムツトゲイセキグモが30年ぶりに神奈川県から発見された

1994年8月20日に厚木市七沢の自然保護センターで赤羽尚夫氏が、9月4日に山川守氏が津久井町で、次いで山川守氏が9月11日に厚木市森の里で、ムツトゲイセキグモの雌と卵のうを発見。神奈川県では竹中英雄氏による相模原市での発見から30年ぶりに当たる。

【5】神奈川県産クモ類目録がまとまった

神奈川県内でのこれまでのクモの記録を網羅して「神奈川県産クモ類目録」472種がまとめられ、KishidaiaのNo.68として刊行された。Simonの記載から、つい最近の小報告までを集大成したもので、文献目録も充実している。谷川明男氏の労作である。各県で同様の仕事を進めるときの前例となろう。

【6】新種チビクロドヨウグモが記載された

昨年度の談話会の三重県熊野合宿（1993年7月末）で、井原庸氏は奇妙な黒いドヨウグモの雌を発見した。さらに緒方清人・吉田真・新海栄一・熊田憲一・谷川明男各氏によって近隣の地域で雌雄数個体が採集されて検討され、谷川明男氏により新種チビクロドヨウグモ *Meta nigridorsalis* TANIKAWA, 1994（種小名は黒い背面を表す）として発表された。

【7】西表島から新種が続々記載された

今年もまた西表島から新種のクモが記載された。田副幸子氏により、サラグモ科のズキンヌカグモ属の一種、オノヌカグモ *Gongylidioides onoi* TAZOE, 1994 (種小名は小野展嗣氏に献名)、加村隆英氏により、ワシグモ科のイリオモテケムリグモ *Zelotes iriomotensis* KAMURA, 1994 (種小名は西表島を表す)、フクログモ科のツキミノウラシマグモ *Phrurolithus luna* KAMURA, 1994 (種小名は月を表す)、ヤマネコウラシマグモ *Phrurolithus lynx* KAMURA, 1994 (種小名は山猫を表す)の4種である。

【8】北海道から新種・新記録種のクモが続々記載された

北海道からも多くの新種と日本新記録種が記載された。林俊夫氏により新種トヨヒラフクログモ *Clubiona sharkeyi* HAYASHI, 1994 (種小名はシャーキー氏に献名。雌のみ)、加村隆英氏により、コブシケムリグモ *Zelotes hayashii* KAMURA, 1987 の雄の初記載、谷川明男氏により、新種マツダタカネオニグモ *Aculepeira matsudae* TANIKAWA, 1994の記載(種小名は松田まゆみ氏に献名)、小野展嗣氏により、フクログモ科の日本新記録種キタカゼフクログモ *Clubiona trivialis* C.L. KOCH, 1843 (保田信紀氏採)、ワシグモ科の日本新記録種タカネツヤグモ *Micaria alpina* L. KOCH, 1872 とシベリアメキリグモ *Gnaphosa stictica* KULCZYNSKI, 1908 の記載があった。

なお、林俊夫氏が群馬県赤城山より、新種アカギメキリグモ *Gnapjosa akagiensis* HAYASHI, 1994 (種小名は赤城を表す)を記載、小野展嗣氏が秋田県・石川県からニシカゼフクログモ *Clubiona mandshurica* SCHENKEL, 1953 (秋田県; 山岸健三氏採)を記録した。

【9】日本と台湾のヒシガタグモが2属に分けられた

ハラナガヒシガタグモは *Episinus mirabilis* BOS. et STR., 1906 とされていたが、大熊千代子氏は、1993年に宮崎で真の *mirabilis* を発見、これまでのハラナガヒシガタグモは *Episinus caudifer* DON. et STR., 1906 であることを明らかにした。さらに、これらの種は *Episinus* 属(ヒシガタグモ属)とするよりも、*Moneta* 属(ヒメヒシガタグモ属)とする方が適当として転属した。日本と台湾のヒシガタグモは *Episinus* 属7種(うち日本産4種、台湾産の新種2種)、*Moneta* 属5種(うち日本産3種)に整理された。

【10】ムシバミコガネグモの正体が明らかになった

コガタコガネグモに似たムシバミコガネグモはこれまで *Argiope keyserlingi* (KARSCH, 1878) と同定されてきたが、谷川明男氏の再検討の結果、*Argiope aetheroides* YIN et al., 1989 であることが判明した。

【11】カタハリヒシガタグモが新種トガリクサチヒメグモとなった

吉田哉氏はカタハリヒシガタグモの一種 *Spintharus* sp. (千国の図鑑の182頁)をクサチヒメグモ属の新種トガリクサチヒメグモ *Coscinida japonica* YOSHIDA, 1994 (種小名は"日本の"を表す)として記載した。既産地は静岡県湯が島町市山(熊田憲一氏採)と愛知県岡崎市・蓬萊町(緒方清人氏採)である。

[以上 選定者/池田博明「遊びです!」]

上記[6]以下の分類に関する事項は日本蜘蛛学会誌の *Acta arachnologica* 第43巻の1号と2号に論文発表されている。

1994年度クモタケ全国一斉調査結果の報告

畑守有紀・新海 明・上田俊穂

1994年 6月～ 8月に実施した、クモタケの日本全国を対象にした一斉調査は合計40余名から、1都 2府18県 120地点の回答を頂いた。その集計が終わったのでここに報告する。なお今回の一斉調査は関西菌類談話会の会員の方にも協力して頂いた。

全回答のうちキシノウエトタテグモが発見されたのは55地点で、クモタケはそのうち36地点から確認された。今回の調査で注目すべき成果としては、①鳥取県からクモタケが発見されたこと。②太平洋側の千葉県から愛知県にかけての分布がかなり解明されてきたことの 2点が挙げられる。

1994年の夏は記録的な猛暑であり、各地で水不足が報道されたことは記憶に新しい。京都市の京都大学理学部付属植物園で 9月15日にキシノウエトタテグモを何匹か採集したが巣穴入口付近で干からびている個体が多く見られた。また同所では例年であれば 6月の終わりにはクモタケの発生が見られたが、1994年は 7月28日に初めてクモタケを観察している。梅雨の高温多湿の時期をねらったように発生するクモタケにとって、昨年乾燥した天候は、発生に適さない条件であったのではないだろうか。クモタケの分生子柄束ができてから枯れるまでの期間は約 1～ 2週間である。たとえキシノウエトタテグモが生息する場所であっても、この短い期間に運よく出会わなければクモタケは発見できない。その意味で1994年はクモタケの発見が難しい年であったといえる。

クモタケ調査の空白地帯はまだ存在する。九州地方はキシノウエトタテグモの分布がかなり確認されているので今後クモタケも確認される可能性が高い。日本海側についてはまだクモタケ、キシノウエトタテグモ共に新たな発見地がでるかもしれない。またキシノウエトタテグモの北限は昨年の石川県金沢市よりさらに伸び、新潟県三島郡にまで分布するらしいとの情報を得た。これらを確実にしていくためにも、この地域の近くに住んでいる方々のご協力を今後ともお願いしたい。

クモタケの一斉調査は今後もまた行いたい、この 2年間の成果を含めて今までの記録をまとめて一度報告したいと思う。したがって今回は1994年度の地点ごとの詳細な結果の報告はあらためて報告することにし、全体での分布図としてまとめたものを以下に示して報告に代えたい。

郵便振込口座番号 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会

東京中心部

新宿駅

渋谷駅

東京駅

凡例

● クモタケと
キシノウエトタテグモが
確認された地点

○ キシノウエトタテグモ
のみが確認された地点

× クモタケ、
キシノウエトタテグモ
とも確認されなかった地点

0 100 200 300 400km

2. サンホセ～コルコバード

朝ホテルを出てサンホセ空港へ。我々は次の目的地コルコバードへ向かうことになっていた。重量制限（この日の早朝トランクなどの大きな荷物を次の目的地トルトゲーロへ陸送するために出し、必要最小限の荷物を持って飛行機に乗り込むことになっていた）があると聞いていたので小さな飛行機だろうと思っていたが、吹けば飛ぶようなプロペラ機であった。思いのほか快適なフライトが小一時間程続いて到着したPalmar sur空港は、滑走路は砂利道、建物はトタンぶきの掘っ建て小屋というとんでもない所だった。物珍しげに写真を撮っていると現地の人に話し掛けられた。何を言っているのかさっぱりわからないので困ったが、スペイン語のできる人いわく「どこへ行くのか？」と尋ねているらしい。更に「お前たちは韓国人か？」（これだけはわかった）ときかれた。東洋人の区別は彼等には難しいのだろう。後発便（我々は3～4機に分乗していた）の到着を待つ間暇なので空港の敷地内に植えられているスターフルーツ（カタバミ科）の実をもいで食べた。輪切りにすると星の形をしているのがその名の由来でご存じの方もいると思うが、さわやかな酸味が印象的である。原産は東南アジア説が有力らしい。その他の人はバーで喉を潤したり、買い物をしたり、クモを探したり…思い思いに時間を潰していたが、生理現象を催した方から次のような情報もたらされた。

2-1. 鍵付きトイレの謎

空港の近くだから当然トイレはある。ところが中にどんな大事な物を隠してあるのかわからないが、トイレには鍵がついており空港の人に鍵をもらって用を足すのである。入って見ると中はとても汚く女性の方などそのまま出てこられたそうだが、臭い物にはフタで鍵をかけるのか汚されないようにするためか理由は全く不明である。私は「黄金」が隠されているせいだと確信している。

2-2. 苦難の道行き

全員が揃うと2台の小型バスに分乗して目的地（といっても殆どの人がどこをどう行くのかさっぱりわからなかったが）へ向かって走り出した。道は舗装されておらず、そのうちとんでもないガタガタ道になった。道の両側には飛行機からも見えたバナナ畑が延々と続く。道行く人は皆手を振りいかにものどかである。そろそろ尻が痛くなってきた頃バスが止まり、降りたところが船着き場だった。この頃から雲行きが怪しくなりパンクで遅れた後発を待つ間木の幹に着性したランヤハキリアリを見ているとポツリポツリ雨が降り出し、ボートに乗り込む頃には本格的な降りになった。これから先我は熱帯のスコールの凄さを知ることとなる。3艘のボートは河口を滑るように走り兩岸に現れたマングローブ林

会費は年間 一般¥2,800 学生¥2,000

が海の近いことを教えてくれる。しばらく行くとボートが突然とまり何やら配り始めた。ライフジャケットである。太平洋に出たのだろう。大袈裟なと思ったのも束の間、悪天候もものかわ3人の船頭は競艇でもしているかのように飛ばす。おかげでボートは前後に大きく揺れる。私は縦揺れは比較的耐えられるので最初は「愉快、愉快」と思っていたが、雨で体は冷えてくるし、結構長く揺られていたので衝撃で尻は痛くなるし多少辛かった。事実気分が悪くなった人も少なくなかったようだ。こちらの苦衷を知ってか知らずか船頭はビュンビュン飛ばす。とくに若い船頭ほどその傾向は顕著で、不幸にも一番若い船頭のボートに乗ったいつも元気なT氏はへろへろになっていた。陸が近くなりようやく着いたと思ったら、ボートは波おだやかならぬ洋上で突然止まり、年かきの船頭のボートのみ浜から2~3mの距離に着け、あとはくつを脱いで走ってあがれと言う。またどうやら舟を近くまで着けられるのは年かきの船頭だけのようで、沖にとまった2艘のボートから我々の残り全員をピストン輸送することになった。おかげで波に揺られて運ばれるのを待つ間余計気分が悪くなる人も出た。

全員の輸送も終り、やっと着いたと思いきや目指すロッジへの道は急な上り坂で運動不足の身には応えた。5~6分ほどでその後4日間滞在するMarenco Biological Stationのロッジに到着。昼食のため食堂に集まり全員が席に着いた途端猛烈なスコールが我々を迎えた。そういえば昔、愛の「スコール」という炭酸飲料がありましたな（全然関係ないけど...）。食事がすんでくつろいでいると、ニシヨクキムネオオハシが飛んできて木にとまった。中空の大きなくちばしが目立つ。そのうちハチドリやクロコンドルもやってきた。ここは野鳥の楽園のようだ。つくづく良い所へ来たなと思っているうちにスコールもあがり、各自割り当てられた部屋へ向かった。私は談話会員の小峰氏と同室である。このあとトレイルへ入ることになっている。何が見られるか楽しみである。

クモ記事情報

月刊「たくさんのふしぎ」6月号 福音館書店 ¥680

掲載記事 《ノイバラと虫たち》 藤丸篤夫より

ノイバラに集まる”虫たち”の話です。

紹介されているクモ（写真10点）ボカシミジングモ、クサグモ、ヤミイロカニグモ、ハナグモ、ワカバグモ、フノジグモ、ウススジハエトリ、アオオビハエトリ

この他会員の秋山亜由子さんの描くクモのイラストも掲載されています。

(84)-15

き り と り



Molcus

夏合宿のご案内

東京蜘蛛談話会の夏合宿を高知県にて下記の通り実施します。会員諸氏の多数のご参加をお待ち申し上げます。

日時：1995年8月5日（土）～7日（月）

宿泊：高知県香美郡夜須町手結 国民宿舎海風荘 ☎08875-5-4121

交通：A. 飛行機 羽田-ANA（約1時間20分）-高知空港 車約20分

B. 自動車 高松-高松自動車道～川之江JCT～高知自動車道「南国IC」～高知東道路-国道55号（約40分）-海風荘

C. 鉄道 東京駅-新幹線～岡山駅経由～L特急南風（約6時間）-高知駅
東京駅-寝台特急瀬戸-高松駅-特急しまんと（約11時間）-高知駅
-土電（約5分）-はりまや橋-土電バス（約40分）-手結 徒歩約10分
その他 高速バス（2種類、要予約）、フェリーもあります。

費用：宿泊費、大人一泊7300円（3食・税込み）+雑費1200円（旅行保険等）

申し込みは6月30日（金）までに葉書または電話で、平松毅久まで

〒350 川越市上戸91-3瀬尾荘2 ☎0492-33-8792

早めにお申し込み下さい。参加申し込み者には交通費や時刻表を別途ご案内します。また遠方の上交通の便が良くないため、飛行機の団体（往復）を組もうと思います。ご希望の方は5月31日までに平松までご連絡下さい。行きが5日の11時頃、帰りが7日の夕刻の便を予定しております。希望者には決定次第詳細をご連絡します。自動車で来られる方はその旨ご明記下さい。

(84)-16

-----き-----り-----と-----り-----

1995年 月 日

高知合宿に参加（5日、6日、7日）を申し込みます。

住所 〒

氏名

（年齢 才）→必ずお書き下さい（保険に必要）

自動車に参加（します・しません）